

# 地域が主体となった森林の集約化を推進しています



カラマツの本数を数えたり樹高を測定すると、どの木を間伐すればよいかイメージできる（佐久市大沢財産区）

## 現地調査・山見の取組み

佐久地域の森林は、2万3千名以上の個人や団体が所有しています。そのうち95%以上にあたる約2万2千名は5ヘクタールに満たない小規模な所有者になっています。

上の写真では同じような樹高のカラマツ林が奥まで続いています。手前と奥の方とで森林所有者は違います。そのため、土地の境界や森林の状況を現地で確認する作業をしています。

また、人工林の多くは、昭和30年代をピークに多く植えられており、現在、木材として利用可能な50年生以上となっています。

一方で、間伐作業や間伐材の搬出においては近年高性能林業機械の導入が進み、森林組合や各事業体では作業コストの削減や間伐材の売却等の収支改善に取り組んでいるところです。

このような佐久地域の森林をとりまく状況を踏まえて、間伐作業等を広範囲で一括して効率的に行うためには、零細で分散した個々の所有森林の施業を共同して集団的にとりまとめる「森林の集約化（これを「団地化」ともいいます。）」が必要不可欠な条件になります。

長野県では森林所有者の皆様は、大切にしている森林の管理や整備を共同で計画的に進めていただけるよう、地域の森林組合や各林業事業体と十分に打ち合わせていただくことを提案し、その第一歩として説明会（現地調査、山見）を開催しています。